

人権・同和問題の解決に向けて

輝く未来

(資料編)



第五次輝く未来計画 (栗東市人権・同和教育推進5ヵ年計画) 2021-2025

栗東市では、「一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち」をめざして、「第五次輝く未来計画」を「栗東市人権擁護に関する条例」のもと策定しました。

認め合おう お互いを
広げよう つながりを
深めよう 学びを



「第五次輝く未来計画」
データはこちら



人権・同和教育啓発の合言葉

一人ひとりがまず一步！ 差別を「なくす」行動を！

めざす姿

一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、 差別や偏見のない住みよいまち

21世紀は「人権の世紀」といわれています。

自分たちの身近な地域社会において、まちづくりのめざす姿にそった「ふるさと」づくりができているか、また、一人ひとりの人権が大切にされ、差別のない「まちづくり」になっているか、「気づき、考え、行動」していきましょう。

この資料は、人権週間（12月4日～10日）の機会に、市民のみなさんに、人権について考えていただくことを目的に作成しています。

～子どもたちは学んでいます～

十里まちづくり学習(部落差別問題学習)の推進

栗東市の学校・園では、「十里まちづくり」を部落差別問題学習の教材として、その理念や地域の方の思いをふまえて、学習しています。

「十里まちづくり」とは？

部落差別をなくすために、住民の方々と行政が一体となって、まちを生まれ変わらせようとした事業です。

「十里まちづくり」の5つの理念

- ・安全で快適なまちづくり
- ・地域の魅力を生かしたまちづくり
- ・高齢者にやさしいまちづくり
- ・地域コミュニティを生かしたまちづくり
- ・一人ひとりの思いを大切にするまちづくり



子どもたちは、差別に立ち向かってきたたくさんの方々の熱い思いや努力を知り、差別と闘い、人とつながり、一人ひとりが互いの人権を尊重しあえる社会を作っていくことの大切さを学んでいます。



大人である私たちも「十里まちづくり」を正しく理解し、自分の生き方を問い直すことが、幸せな社会の実現に向けた第一歩になります。

部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けて、栗東市が差別や偏見のない住みよいまちとなるよう、「気づき、考え、行動」していきましょう！



SDGs (持続可能な開発目標) は、2015年の国際サミットで採決された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するため、17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。(左には、十里まちづくり事業に関係のあるゴールを記載しています。)

栗東市の人権尊重への取り組み

栗東市では、一人でも多くの市民が「お互いを認め合い、つながりを広げ、学びを深める」ことで、「一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち」づくりをめざしています。

地区別懇談会の実施

部落差別をはじめとする様々な人権問題について学び、自分自身に問いかけ、人権問題に対して「気づき、考え、行動する」ことにより、よりよい地域社会を形成するとともに、ぬくもりのある人間関係の輪を広げていきます。

原則として、各自治会で、全住民を対象に、年間1回以上開催します。

2022年度からは、専門・推奨・一般コースから1つを選択して実施しています。

同和問題啓発強調月間および人権週間の啓発活動

滋賀県では、毎年9月を「同和問題啓発強調月間」、12月4日～10日を「人権週間」と定めています。

市民の方々に人権について考えていただくために、この期間に啓発物品を配布して、呼びかけを行っています。

各人権関係団体と協力し、2022年度は、JR栗東駅・手原駅、市内量販店で駅頭・街頭啓発を実施しました。



人権啓発リーダー講座の開催

地域や学校・園で主体的に啓発活動を行う人権啓発リーダーとしての人材を育成し、差別をなくす実践を広げていきます。

参加者の人権に対する学びのニーズに対応できるよう、人権講座を開催します。

2022年度は、5コース・12講座を開催し、のべ540人の方々に参加いただきました。



差別の現実に学び、人権・同和問題についての正しい理解と認識を深めよう！

